

大学名	チーム名(プロジェクト名)		
京都産業大学	「一十モデル」チーム		
参加学生 (登壇者★)	★吉岡 駿(法学部)3回生 ★林 悠人(法学部)3回生 ・山本 恭督(法学部)3回生 ★辻本 朋果(国際関係学部)3回生 ★福留 里菜(法学部)3回生 ★遠井 喬平(バイオ環境学部)3回生 ★山野 駿太(経営学部)3回生 ★山田 悠斗(法学部)3回生	連携先からの ミッション	環境問題と貧困問題の同時解決システム構築のため、台湾の“一十モデル”の日本版を構築して提案する
活動期間	2021. 9. 30 ~ 2022. 2. 8	受け入れ先 団体・企業名	グローバル人材開発センター

ミッションへ取り組み概要(自由記述, 図表・画像挿入可)

①Missionの概要

◆Missionのゴール

台湾企業のDOMIが考案し実施した「一十モデル」を日本版として構築すること

◆「一十モデル」とは？

台湾企業のDOMIが考案した環境問題と貧困問題を同時解決するためのシステムを指す。

- 1.企業が無駄や浪費を削減し、浮いた経費をプールする
- 2.プールした資金を基に、貧困層へエコ商品を普及させる
- 3.エコ商品で環境問題が、物資の普及で貧困問題が解決する
このモデルを日本版に再構築する。



図. 日本版+モデルの概略図

②- (マイナス)モデル案「環境マネジメント成績表」

◆ターゲット 中小企業

◆理由

中小企業は環境問題の取り組むうえで「人・知識・時間」の余裕がない事、経営者の意識が環境問題へ向きにくいから

◆プロダクト概要

「どのエネルギーが無駄になっているか」「何をすればコストとCO₂がどれだけカットできるか」をエクセルで自動計算する 環境マネジメント成績表 を開発

③+ (プラス)モデル案「カタログを使った貧困層へのエコ商品の普及」

◆ターゲット 相対的貧困(以下、貧困と表記)かつひとり親世帯

◆理由

日本における貧困率は15.4%と横ばい、ひとり親世帯の貧困率は48.1%と高い水準であること、ひとり親の貧困＝子どもの貧困であり経験学習の機会損失により貧困の連鎖が止まらないと考えたから

◆プロダクト概要

②のマイナスモデル実施によってプールした資金を基に、カタログを通じて「ひとり親＝省エネによるポイントを利用したエコ物資の支給」と「子ども＝経験学習の提供」を受けられるシステムを構築

ミッションに取り組む中で社会的課題として見えてきたこと(ミッションと深く関わる社会的な課題)

①環境問題の意識不足

◆日本の場合、個人の意識レベルでの取り組みは浸透しきれていない事が分かった。すぐに実践できることからでも取り組んでいかなければ、環境問題は解決しないと痛感した。

◆企業のSDGsに関する取り組みにおいても、表面上だけのものではなく、原材料から見直し、最終的に土に還ることで循環する商品づくりをしなければ問題の根本は解決しないことが分かった。

②貧困問題の認識の難しさ

◆日本の場合、絶対的貧困における保障は手厚くなっているが、相対的貧困層への支援が届きにくい。原因として、社会コミュニティの希薄化、非正規雇用や低賃金労働問題、自己責任論による声のあげにくさなどが挙げられた。さらに、貧困の家庭の子どもたちは高額な大学・専門学校への進学よりも就職を優先してしまうため、貧困が連鎖していく事も課題として挙げられた。